

# 特集

## トキシドローム 真実はいつもひとつ!! か!?

今号の特集テーマである「トキシドローム」は、患者の症候などから中毒原因物質を類推し治療にあたるという中毒診療の概念です。多数疑われる“犯人”をさまざまなヒントから一つ(?)の真実を絞り込んでいく過程は、さながら“名探偵”のようです。しかし、このトキシドロームは、中毒診療に造詣が深い方ならまだしも、そうでない方には、もしかすると救急医でさえ、まだ十分に理解されていない分野と思われるかもしれません。ましてや、中毒診療に関する書籍や特集のなかで紹介されることはあっても、1冊まるごとこれをテーマにした和書出版物は存在しません。そこで今回、まさに「トキシドローム」を真正面から取り上げる特集を企画しました。

まず総論では、過去の実例も紐解きながら、トキシドロームがいかに重要で、実際どのように使用されるのか理解いただけるような内容を目指しました。トキシドロームを単に丸覚えするのではなく、なぜそのような症状が現れるのかを自ら考えられるように、中毒症状の解剖学的機序に関する項目も設けました。

各論においては、日本で比較的一般的な日本中毒学会の提する5つのトキシドロームと、とくに鑑別を要するものとしてセロトニン症候群や悪性症候群に関するトキシドロームも取り上げ、それぞれの症状や機序、具体的な原因物質と対処法を解説いただきました。各項目で揭示されている症例を通じてトキシドロームの実践を疑似体験すれば、より学びが深まるでしょう。

さらに、近年の災害・テロ研修やオリンピックなどの大規模イベントでも検討されている、テロ対策などにおけるトキシドロームの活用に焦点を当てた解説、そして、より簡便かつ正確にトキシドロームを使用するためのICTやアプリケーションなどの連携・活用に焦点を当てた解説は、きっと現場での実践につながるはずです。

このような構成でお届けする本特集が、トキシドロームのさらなる普及および活用につながることを、そして中毒診療の質の向上につながることを期待しています。